土佐市立土佐南中学校						公印	NO. 4
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	評価	改善策（A）	学校関係者評価記入欄
4 はぐくもう豊かな心・健やかな体 豊かな心の育成	不登校出現率調査	年度末の不登校出現率で判断。（小学校）不登校出現率が ・0.3%以内＝A・0.7%以内＝B ・1.1%以内＝C・1.5%以内＝D ・2.0%以上＝E （中学校） 2%以内＝A ・2.5%以内＝B 3%以内＝C・3.5%以内＝D 4.0%以内＝E	25年度は5段階評価でDであった。 26年度は5段階評価でCを目指す。 ・H25：3.6%→H26：2.0%	○30日以上欠席がある生徒は2名。その内1名はほぼ完全不登校である。やや不登校傾向の生徒もその他に1名いる。不登校（傾向）生徒0を目指す。	A	○関係機関との連携を継続 ○気になる生徒に関する情報交換 ○毎月行っているFMdayの充実と活性化	○特に意見はありませんでした。
	人間関係づくり（PA・SGE等）を推進しているか。	全学級での人間関係づくりの取組の実施状況で判断。 年間4回以上　＝A 年間3回　＝B 年間2回　＝C 年間1回　＝D 一度も取り組んでいない＝E	25年度は5段階評価でBであった。 26年度は5段階評価でAを目指す。 ・H25：全学級平均3回合計9回→H26：全学級平均3回合計9回	○学級での取組や学校行事などを実施するにあたり、目標設定や振り返りを行うことで、学級の人間関係づくりを推進	B	○学級経営の充実のため仲間づくりや人間関係づくりに関わる特別活動や道徳を継続的に実施	
	●Q-Uアンケート分析職員会、人間関係づくり、Q-Uに関する校内研修会の実施 ●道徳的価値の自覚を深めるための道徳授業の充実と道徳参観日の実施 ●生徒の感性や道徳性を培う体験活動や奉仕活動（命の授業・高齢者体験授業・ボランティア） ●「FMday：ファーストマンデー」：毎月第1月曜日に気になる生徒の様子について情報交換を行う「生徒理解職員会」の実施 ●「読書活動の充実」：図書支援員による図書室の活用、展示等の充実、読み聞かせ、生徒選書会の実施 ●花の植栽活動（4月．11月）				B	○Q-Uに係る研修の継続 ○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○ストレスバイパス ○読書活動の推進	
居場所のある学校づくり	いじめ認知件数	問題行動調査のいじめ認知件数のうち解決した割合を記入。 （記入例） 認知件数○件のうち、□件が解決。残り△件は・・・・・。		○いじめ認知件数は2件。明らかないじめ行為は確認できないが集団内での位置づけが固定し疎外感があり、いじめられた側は被害感を持っているというものである。2件とも担任が指導・確認等を行い、一定の解消済みだが、なお支援を継続中である。		○学校生活に関するアンケートの継続実施 ○気になる生徒に関する情報交換を毎朝の職員朝礼で積極的に行う。 ○学級経営の充実として、仲間づくりや人間関係づくりに関わる特別活動や道徳を継続的に実施する。	○いじめについては、我々の子どもの頃と比べ非常に敏感になっていると感じる。 ○スクールカウンセラーの講演で「心のエネルギー」のことが話されたが今の生徒はこの「心のエネルギー」が弱いのではないか。それが強ければ違ってくるのではと思う。 ○かつてに比べるといじめが見えにくくなっているという事だと思う。毎年数件、特定の個人を誹謗・中傷するような書き込みがある。書かれた相手は気づいていないかもしれないが、いじめに該当してくると思われる。
	教職員が児童生徒の心を理解する研修を行っているか。	Q-Uアンケートや心の教育に関する校内研修会の実施回数で判断 ・年間5回以上行っている＝A ・年間4回以上行っている＝B ・年間3回以上行っている＝C ・年間2回以上行っている＝D ・年間2回以下である　＝E	25年度は5段階評価でBであった。 26年度は5段階評価でAを目指す。 ・H25：校内研修4回、毎月FMdayの実施→H26：校内研修4回、毎月FMdayの実施、Q-Uアンケート分析方法	○FMdayやQ-Uアンケートの校内研修については継続実施。 ○学年が上がるにつれて学級生活満足群の割合も向上している。 ○児童生徒の心の理解面については、日常の指導の中で得た情報を更に共有することが重要。	B	○教職員の積極的な研修会への参加 ○校内研修の充実	
	Q－Uアンケートから見る児童生徒の状況＞	Q-Uアンケート2回目の満足群の割合が ・75%以上＝A ・65%以上＝B ・55%以上＝C ・45%以上＝D ・45%に満たない＝E	25年度は5段階評価でCであった。 26年度は5段階評価でBを目指す。 ・H25：66%（全国35%）→H26：55.7%（全国37%） （参考：1年50%、2年57%、3年60%）	○学習に自信のない生徒が不満足群に属している傾向は昨年度と同様 ○学力向上の取組の充実も継続（T2シート活用・机間指導・支援）	C	○Q-Uに係る研修の継続 ○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○授業での個への支援（机間指導の充実）	
	●Q-Uアンケート分析職員会、人間関係づくり、Q-Uに関する校内研修会の実施 ●道徳的価値の自覚を深めるための道徳授業の充実と道徳参観日の実施 ●生徒の感性や道徳性を培う体験活動や奉仕活動（命の授業・高齢者体験授業・ボランティア） ●「FMday：ファーストマンデー」：毎月第1月曜日に気になる生徒の様子について情報交換を行う「生徒理解職員会」の実施 ●「読書活動の充実」：図書支援員による図書室の活用、展示等の充実、読み聞かせ、生徒選書会の実施 ●花の植栽活動（4月．11月）				B	○Q-Uに係る研修の継続 ○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○個別支援や特別支援教育の充実	
健康な体と体力の増進	児童生徒の体力について	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から判断 体力総合得点の全国との差が ・3P以上＝A ・1P以上＝B ・－1P以上＝C ・－3P以上＝D ・－3P未満＝E	25年度は5段階評価でCであった。 26年度は5段階評価でBを目指す。 ・H26：中2男52.5（全国比+2.5）、中2女49.9（全国比-0.1）男女平均全国比51.2(全国比＋1.2)	○中2男子52.5（全国比＋2.5）、女子49.9（全国比-0.1）で男女平均全国比＋1.2Pだった。 ○積極的に体育授業に取り組む意欲を高め、体力アップ運動・部活動での成績の向上となっている。	B	○体育の授業での基礎運動の充実 ○運動部活動への積極的な参加	○項目の中に「睡眠時間」がわかる項目があればよいと思う。 ○土佐市食育推進計画を見直しており、市全体を見ても朝食の摂取率はどうかというところがある。また、食べてはいるが偏りがありバランスの取れた朝食とはなっていないので、これから力を入れたいと考えている。学校の方でも栄養士さんやヘルスメイトさんと共に取り組んでいきたい。
	児童生徒が規則正しい生活が送れているかどうか。	生活実態調査から、児童生徒の朝食の摂取率で判断。 ・100%＝　A ・95%以上＝　B ・90%以上＝　C ・85%以上＝　D ・85%未満＝　E	26年度は5段階評価でAを目指す。 ・H25：朝食摂取率は82%（H24：85%）→H26：89%	○本年度の朝食摂取率は89%（昨年度82%：＋7P）となった。理由としては昨年と同様「時間がない」「食欲がない」。 ○食べない生徒1%（昨年度2%）や主食のみ8%と減少している。2年生が「朝食づくり」学習と調理実習を行い、朝食の必要性を知ることができている。	D	○年間を通じた生活調査の実施や通信の発行で意識づけを図る。（保護者へのフィードバッグ） ○外部講師を招いた学習や料理実習の継続実施。	
	●小中連携による学習規律・生活習慣・家庭学習の習慣化を継続して行う。 ●「小中連携だより」、「土佐南校区健康だより」により児童生徒の発達状況等の啓発活動を継続。 ●ヘルスメイトさんを活用した「朝食づくり」の取組。（朝食の重要性について学習→調理実習）				C	○児童生徒の生活習慣や体力・運動能力について、「土佐南校区健康だより」等で家庭の協力を得られるよう啓発する。	

学校関係者評価を踏まえての改善点：
◇ネットにおけるいじめやトラブル等の防止に向けて校内研修を行うとともに、専門機関等と連携した指導となるよう取り組む。
◇いじめ防止基本方針に添った「楽しく豊かな学校生活」が送ることができる、いじめのない学校づくり。
◇「個別支援」が必要な生徒への対応の充実と「予防策」の検討。
◇生徒会執行部や専門委員会を主体とした課題解決に向けた活動（いじめ防止にむけての生徒活動の充実）。
◇朝食摂取率の向上や内容の充実に向けて関係機関とのさらなる連携充実を図る。